

現状

版画美術館

- 交通アクセス（高齢者対策）
- 情報発信力
- 教育への活用

フォトサロン

- 知的障がい者の就労の場（福祉団体に委託）
- 単なる貸館業務だけの施設にならない工夫（展示・普及・交流の専門職員がいない）

市立博物館

- 老朽化
- 狭隘化（収蔵庫）
- 立地の悪さ（アクセス、急坂、駐車場の狭さ）
- 考古資料の未整理（担当職員がいない）
- 収蔵庫の構造上の問題（温湿度管理ができない）
- 教育普及機能が未整備（担当職員がいない）
- 地域の文化資源としての役割

自由民権資料館

- 市域の史料整理の不備（人員不足・現状では20年以上はかかる）
- 新規史料受け入れが困難（人員不足）
- 市史改訂版の検討が必要（人員不足）
- 学芸担当職員の欠如

考古資料室

- 保管場所不足
- 温湿度管理ができない
- 交通アクセス
- 公開できない（運営予算が足りない）
- 学芸員、エデュケーターが不足（来館者に対応できない）

ふるさと農具館

- 農機具の劣化（展示できないものが多い）
- 保管場所の不足
- 重量資料の取り扱い環境が不備（危険）

がにやら自然館

- 展示の専門職員が居ない（ノウハウがない）
- 資料収集の予定はない
- 寄贈を受けても管理・展示する人員が不足

萬葉草花苑

- 専門知識を持った職員がいない。

かしの木山公園

- 自然環境活動や、ボランティア活動など市民の活動ニーズの高まりへの対応
- 運営の問題（各団体の交流・高齢化）

将来

分野、特性ごとのネットワーク化・一体的な運営の連携

美術 施設群

文化芸術振興・憩い
アートによる町の活性化
市民の生き生きとした活動

郷土史 施設群

歴史文化・伝統の継承
郷土学習・くらしの知恵
地域の誇りの醸成

自然史 施設群

自然とのふれあい
地域の憩い、環境学習
生きる知恵と力

整備が必要な点

求められる施設や設備機能

立地の考え方

施設・資料を有効活用するための機能と視点

- 運営機能
 - ・市民協働
 - ・生涯教育
 - ・学校教育との連携
 - ・大学との連携
 - ・施設間の連携
 - ・情報の収集・発信・活用（文化財・人・その他）

- 視点
 - ・まちづくり
 - ・観光・産業との関連
 - ・資源（お宝）の活用
 - ・人材の育成と配置
 - ・組織の問題
 - ・社会的ニーズ